



研究者総覧：長畑 明利 (NAGAHATA, Akitoshi)

氏名	長畑 明利 (NAGAHATA, Akitoshi)	
職名	教授	
所属講座	国際多元文化専攻アメリカ言語文化講座	
学位（専攻分野）	修士（文学）・東京外国語大学	
メールアドレス	e43479a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~nagahata/	
研究分野	アメリカ文学	
	アメリカ詩	
	文学における多文化社会の表象	
現在の研究テーマ	エズラ・パウンドとモダニズム詩	
所属学会	日本アメリカ文学会	
	日本英文学会	
	Modern Language Association	
主要著書・論文	『語り明かすアメリカ古典文学 12』（共著、アメリカ文学の古典を読む会編、南雲堂、2007）	
	『アメリカ文化史入門』（共著、亀井俊介編、昭和堂、2006）	
	『異郷の身体——テレサ・ハッキョン・チャをめぐる』（共著、池内靖子・西成彦編、人文書院、2006）	
	『記憶の宿る場所——エズラ・パウンドと 20 世紀の詩』（共著、土岐恒二・児玉実英監修、思潮社、2005）	
	『アメリカン・モダニズム——パウンド、エリオット、ステイーブンズ、ウィリアムズ』（共著、富山英俊編、せりか書房、2002）	
自己紹介文	<p>専門はアメリカ文学です。モダニズム以後のアメリカ詩を中心に、文学テキストに見られる言語的特徴や、詩人・小説家の「言葉」についての考えを明らかにし、それらが持つ意味について検討する作業を進めています。これに加え、アジア系、アフリカ系など人種・エスニシティに基づく文学・文化研究や、ポピュラー・カルチャーの研究も手がけています。教育面では、国際言語文化研究科で、「現</p>	 <p>研究会のメンバーとともに出した共著。アメリカ古典文学について、夜を徹して語り明かした日々の記録でもある。</p>

	<p>代アメリカ文化論」と「言語表現技術演習」（英語高度専門職業人コース）を、学部1、2年生向け（全学教育）に英語授業を担当しています。また、主指導教員あるいは副指導教員として、大学院生の論文指導を行っています。これまでに学生が選んだ修士論文のテーマは多岐にわたりますが、一部を紹介すると、Jamaica Kincaid、Maxine Hong Kingston、Tony Kushner、Raymond Carver、Amy Tan、Kenneth Koch、Nancy Cunard、Jack Kerouac とロック、ユダヤ系アメリカ文学、日系二世文学、アフロセントリズム、ハワイの先住民権利回復運動、Jim Jarmusch の映画論などです。多様なアメリカ文学・文化の研究指導ができるよう、日々努めています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>文学や文化の研究には様々なアプローチがありますが、自分が専門分野と決めた領域の文学作品や映像テキストなどを、一つ一つ、具体的に読んだり、見たり、聞いたりする作業が欠かせません。何らかの分析の方法が先にあり、それに当てはまる作品を探すのではなく、まずは自分の領域にある作品（群）を地道に（場合によっては、愚直に）読んだり、見たり、聞いたりすることが大切です。大きな理念も大切ですが、いわゆる分析ツールを学ぶことも有益ですが、まずはテキストから始めることが大事です。個別のテキストに向かい合い、それらとつきあうことから、様々な気づきや問いが生まれるはず。そして、そうした気づきや問いが様々な形で鍛えられ、自分なりの研究テーマへと育まれていくはず。アメリカ文学や文化の研究の場合、こうした作業を進めるためには、英文の読解力や聞き取り能力が必要です。研究の過程で、英文和文による論理的文章の執筆や、口頭で知見を発表する能力なども必要になってきます。学部でもしばしばそうした能力は培われますが、大学院では、それがさらに高いレベルへと引き上げられます。そうした作業を通じて、文学・文化研究に限らず、広く社会でも通用する高度な英語力や文章力が培われることでしょう。大学院では、様々な面白い仲間にも出会えます。後々皆さんの大きな財産になっていくはず。 </p> <div data-bbox="1066 779 1345 1137" data-label="Image"> </div> <p>サンフランシスコのコロムブス像。あなたはこの像にどのような意味を見出しますか。</p>